

留学推進へ環境整備

各国に展開 EF社と連携協定



協定に調印し、記念写真に納まる(左から)中村社長、大谷・八戸学院大学長、外崎・同短期大学長、橋場・光星高校長、齋藤・野辺地西高校長

学生・生徒が海外留学しやすい環境を整備するため、八戸市の八戸学院大学(大谷真樹学長)、同短期

大学(外崎充子学長)、同

光星高校(橋場保人校長)、

野辺地町の同野辺地西高校

(齋藤弘実校長)は28日、

世界各国で語学学校などを

展開する企業「イー・エフ

・エデュケーション・フア

ースト・ジャパン」(EF

社)と連携協力協定を締結

した。

EF社は、4校の学生・

生徒が国外に43ある自社の

語学学校へ通うための事務

を請け負い、学校や滞在先

探しなどに関わる学生・生

徒の負担を軽減する。これ

に伴い、大学・短大は学生を選抜し費用の一部を補助する制度を始め、夏休み中に5人を派遣する予定。

将来的には、留学を取り入れた高大7年間で語学教育プログラム実施や、市民が生涯学習として留学する際に、大学が窓口となるような仕組みづくりも視野に入れている。

EF社の中村淳之介代表取締役社長は、同社の英語力ランキングで東北地方が国内最下位だとして「東北のグローバル化に貢献したい」と語った。大谷学長は

「八戸にいても世界を知ることが出来る時代になったのだと実証したい」と話した。(新村菜穂)